



613-000138 Rev.D 061017



最初にお読みください

CentreCOM® AR550Sリリースノート

この度は、CentreCOM AR550Sをお買いあげいただき誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0710-00 Rev.B）とコマンドリファレンス（J613-M0710-03 Rev.C）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.8.1-02

2 重要：バージョンアップ時の注意事項

本製品を正常にご利用いただくために、最新のブートファームウェアへのアップデートを行ってください。

- 本製品の最新ブートファームウェアは、弊社 Web ページに掲載されています。
- ブートファームウェアのバージョンアップ方法の詳細は、「ブートファームウェア バージョンアップ手順書」（弊社 Web ページに掲載）を参照してください。
- ご使用いただいている本体のブートファームウェアは、SHOW SYSTEM コマンド実行時に表示される「Boot Image」の欄で確認できます。

以前のバージョンから、ソフトウェアバージョン 2.8.1-02 にバージョンアップするときは、以下の点にご注意ください。

- セットアップツールによるバージョンアップ完了後、コンソールからログインして、以下のコマンドを実行してください。

```
set install=pref gui=550s_281-02_jp_d.rsc
```

3 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン 2.7.5-03 から 2.8.1-02 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM AR550S コマンドリファレンス 2.8」（Rev.C）をご覧ください。

3.1 RMON 対応

ネットワーク管理機能として、RMON（Remote Network Monitoring）（1,2,3,9 グループ）に対応しました。

3.2 SNMPv2c 対応

参照 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

ネットワーク管理プロトコル SNMP (Simple Network Management Protocol) のバージョン 2c (SNMPv2c) に対応しました。

3.3 PPPoE AC 機能

参照 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」

これまで PPPoE のクライアント機能に加えて、AC (Access Concentrator) 機能がサポートされました。PPPoE のクライアントとして動作と、PPPoE AC の併用も可能です。設定は、新しく追加された ADD PPP ACSERVICE コマンドで行います。

3.4 OSPF 関連機能の拡張

参照 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 (OSPF)」

OSPF 関連機能を以下のとおり拡張しました。

- 準スタブエリア (NSSA: Not-So-Stubby-Area) を作成できるようになりました。
- OSPF インターフェースのコストを実際のリンク速度に基づいて自動的に計算できるようになりました。
- MD5 ダイジェスト認証に対応しました。
- OSPF に取り込める BGP-4 経路の数を 300 から 4000 に拡大しました。

3.5 OSPF : ユニキャストによるメッセージ交換

参照 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 (OSPF)」

VLAN 上において、OSPF のメッセージ交換をユニキャストで行えるようになりました。

設定は、ADD OSPF INTERFACE コマンドに追加された NETWORK パラメーターと、ADD OSPF NEIGHBOUR コマンドで行います。

3.6 OSPF : パッシブインターフェース

参照 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 (OSPF)」

OSPF パケットの送受信を行わない特殊なインターフェース (パッシブインターフェース) をサポートしました。

パッシブインターフェースでは OSPF パケットの送受信を行いませんが、同インターフェースに接続されているネットワークの情報は、スタブネットワークとしてルーター LSA に追加されます。

パッシブインターフェースを作成するには、ADD OSPF INTERFACE コマンドに追加された PASSIVE パラメーターに ON を指定します。

3.7 OSPF : AS 外部経路の集約

参照 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 (OSPF)」

AS 境界ルーター (ASBR) において、AS 外部経路を集約してから AS 内に通知する機能が追加されました。設定は新しく追加された ADD OSPF SUMMARYADDRESS コマンドで行います。

3.8 OSPF：AS 外部経路取り込み時の詳細設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「経路制御 (OSPF)」


AS 境界ルーター (ASBR) において、AS 外部経路を取り込むときに、取り込む経路の数に上限を設けたり、メトリック、メトリックタイプ、経路タグなどを任意に設定したりできるようになりました。設定は新しく追加された ADD OSPF REDISTRIBUTE コマンドで行います。

3.9 IP マルチキャスト

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」

IP マルチキャスト (IGMP、IGMP Snooping、DVMRP、PIM-DM、PIM-SM) に対応しました。

3.10 WAN ロードバランス：ヘルスチェック機能

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「WAN ロードバランス」

WAN ロードバランスの各インターフェースの接続状態を定期的に確認するヘルスチェック機能が追加されました。(VPN との併用時には有効に設定してください。) 一定時間ごとに WAN 側の宛先ホストへパケットを送信して、ホストからの応答を受信します。Weighted fast response モードを使用することで、ホストからの応答時間に応じた負荷分散ができます。

設定は、新しく追加された ENABLE/DISABLE/ADD/DELETE/SET/SHOW WANLB HEALTHCHECK コマンドで行います。

3.11 WAN ロードバランス：動作モードの追加

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「WAN ロードバランス」

以下の 2 つの動作モードが追加されました。

- Weighted fast response モード
このモードでは、ヘルスチェック機能によって外部ホストからの応答時間を測定して、その結果に応じて負荷分散を行います。
- Weighted least connect モード
このモードでは、WAN ポートごとの現在の負荷に応じて負荷分散を行います。

設定は SET WANLB コマンドの SELECT パラメーターで行います。

3.12 WAN ロードバランス：負荷分散の優先度 (WEIGHT パラメーター) の自動設定


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「WAN ロードバランス」

ADD/SET WANLB RESOURCE コマンドの WEIGHT パラメーター (インターフェースの優先度) に、以下の自動設定が追加されました。

- AUTOMATIC (ポートリンク速度に応じた優先度の自動設定)
- PERFECTAUTOMATIC (速度の実測値に応じた優先度の自動設定)

これらの設定は、Weighted lottery モード、Weighted least connect モードで有効です。PERFECTAUTOMATIC の実測値に関する設定は、新しく追加された SET WANLB ABD コマンドで行います。

3.13 L2TP : LAC 対応


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「L2TP」

L2TP の Access Concentrator (LAC) に対応しました。

4 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.7.5-03 から 2.8.1-02 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。各機能の詳細については、「CentreCOM AR550S コマンドリファレンス 2.8」(Rev.C) をご覧ください。


4.1 IP フィルター設定の拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP フィルター」

これまでの IP フィルターの仕様では、IP フィルターの種類ごとに使用可能な ID の範囲が固定になっていましたが、任意の番号の ID に対して、IP フィルターの種類を設定できるようになりました。


設定は、ADD IP FILTER コマンドに追加された TYPE パラメーターで行います。

4.2 IPsec : Invalid SPI 対応

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

ルーターが、自身の知らない (SA を持っていない) SPI 値を持つ ESP パケットを受信した場合に、フェーズ 1 から ISAKMP ネゴシエーションを開始し、新たな SA を作成するように仕様を変更しました。また、その際、INITIAL CONTACT message を送信するようにしました。

4.3 ISAKMP リトライインターバル拡張


 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

これまでの ISAKMP ネゴシエーション時における再送処理は、最初のパケットに対するタイムアウトを設定すると、その値を基準に再送間隔が徐々に長くなるような動作仕様でしたが、その再送間隔を一定間隔に変更できるように仕様を変更しました。

設定は、CREATE/SET ISAKMP POLICY コマンドに追加された MSGBACKOFF パラメーターで行います。

また、MSGTIMEOUT および MSGRETRYLIMIT パラメーターのデフォルト値も変更されました。

4.4 IPsec : フェーズ 1 リトライ拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

ISAKMP フェーズ 1 / フェーズ 2 のネゴシエーションの際に、パケットロストなどが発生して正常にネゴシエーションが完了しなかった場合、リトライを指定回数行えるように仕様を変更しました。

設定は、CREATE/SET ISAKMP POLICY コマンドに追加された RETRYIKREATTEMPTS パラメーターで行います。

5 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.7.5-03 から 2.8.1-02 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。


- 5.1 AR550S の Web GUI において、「-」（ハイフン）を含むファイルの中身を参照することができませんでしたが、これを修正しました。
- 5.2 本製品が、内部のシステムチェック処理によりリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 5.3 出力先に非同期ポート（ASYN）を指定してログを出力すると、文字化けが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 5.4 PPP インターフェースの再接続時に、誤って IP アドレスの再割り当てに失敗するログを表示してしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 5.5 SHOW PPP IDLETIMER コマンドの実行時、インターフェース名が表示されませんでしたが、これを修正しました。
- 5.6 ASBR が AS 外部経路を削除する際に、他の更新事項のない AS 外部経路の更新を行うことがありましたが、これを修正しました。
- 5.7 DELETE IPV6 INTERFACE コマンドで IPv6 インターフェースを一度削除すると、その後 ADD IPV6 INTERFACE コマンドの入力で再び同じインターフェースを追加できませんでしたが、これを修正しました。
- 5.8 ファイアウォール有効時、PUBLIC・PRIVATE インターフェース間で TCP RST パケットのシーケンス番号が変更されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 5.9 ファイアウォール使用時、RTSP サーバーからの再送パケットに追加データが付加されていた場合、該当パケットを正しく転送できず、結果的にクライアント側においてストリーミング再生が停止することがありましたが、これを修正しました。
- 5.10 UPnP 使用時に、リモートホストから FIN に対して 3 ウェイハンドシェイクによるセッションの開放が行われているにもかかわらず、本製品上では TCP のセッションが保持され続ける現象を修正しました。
- 5.11 UPnP モジュールを使用している場合、M-search パケットを受信することによって、メモリーリークが発生する可能性がありましたが、これを修正しました。
- 5.12 VRRP を使用した場合、WAN インターフェースから送信される Advertizing message に 802.1q のタグが付加される場合がありましたが、これを修正しました。
- 5.13 WAN ロードバランス使用時に、クライアントから traceroute を実行すると本製品がリポートすることがありましたが、これを修正しました。

- 5.14 QoS およびルール NAT (ADD FIREWALL POLICY RULE コマンド) の併用時、ルール NAT の対象パケットに対して、QoS のトラフィッククラスが正しく適用されないことがありましたが、これを修正しました。
- 5.15 L2TP、PPPoE、ブリッジを併用した場合、本製品あての通信ができませんでしたが、これを修正しました。
- 5.16 CREATE ISAKMP POLICY コマンドにおいて、POLICY パラメーターに 24 文字のポリシー名を設定することができませんでしたが、これを修正しました。
- 5.17 CREATE/SET IPSEC SASPECIFICATION コマンドの INSPI/OUTSPI パラメーターにおいて、指定できる SPI 値は 65535 までに制限されていましたが、最大値 (4294967295) まで指定できるよう修正しました。
- 5.18 ISAKMP SA がハードリミット満了前の 2 つある状態で、片側の ISAKMP SA より送信されたハートビートパケットのみが 3 回連続到達しない場合、片側ルーターのみ IPsec SA が削除され、通信が行えない場合がありますが、これを修正しました。

6 本バージョンでの制限事項・注意事項

ソフトウェアバージョン 2.8.1-02 には、以下の制限事項や注意事項があります。

6.1 グラフィカル・ユーザー・インターフェース (Web GUI)

 [「取扱説明書」](#) / [「付録」](#) / [「Web GUI」](#)

- GUI 画面ではマルチバイト文字を入力しないでください。入力してもエラーメッセージは表示されませんのでご注意ください。
- GUI 画面では LAN 側インターフェース (Vlan1) の IP アドレスを異なるサブネットの IP アドレスに変更しないでください。変更すると GUI に再接続できなくなることがあります。接続できなくなったときは、ルーターを再起動して変更前の IP アドレスに接続しなおすが、約 10 分待ってから変更後の IP アドレスに接続しなおしてください。
- 「クイックスタート」→「WAN」画面の「DNS リレーを使用する」にチェックを付けたときは、DNS サーバーのアドレスも入力してください。アドレスが未入力でもエラーメッセージは表示されませんのでご注意ください。
- 「クイックスタート」→「WAN」画面で PPPoE 接続の設定をすると、PPPoE インターフェースのリンク状態監視方式が「LQR」(Link Quality Reporting) になります。この設定では、インターネットサービスプロバイダー (ISP) 側の機器が LQR をサポートしていない場合にリンクダウンを検出できず、PPPoE の自動再接続機能が働かませんので、「設定」→「レイヤー 2」→「PPP」画面で「リンク状態の監視」方式を「Echo」(LCP Echo) に変更してください。

7 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM AR550S コマンドリファレンス 2.8 (J613-M0710-03 Rev.C)」は弊社 Web サイトに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0710-03 Rev.C」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>